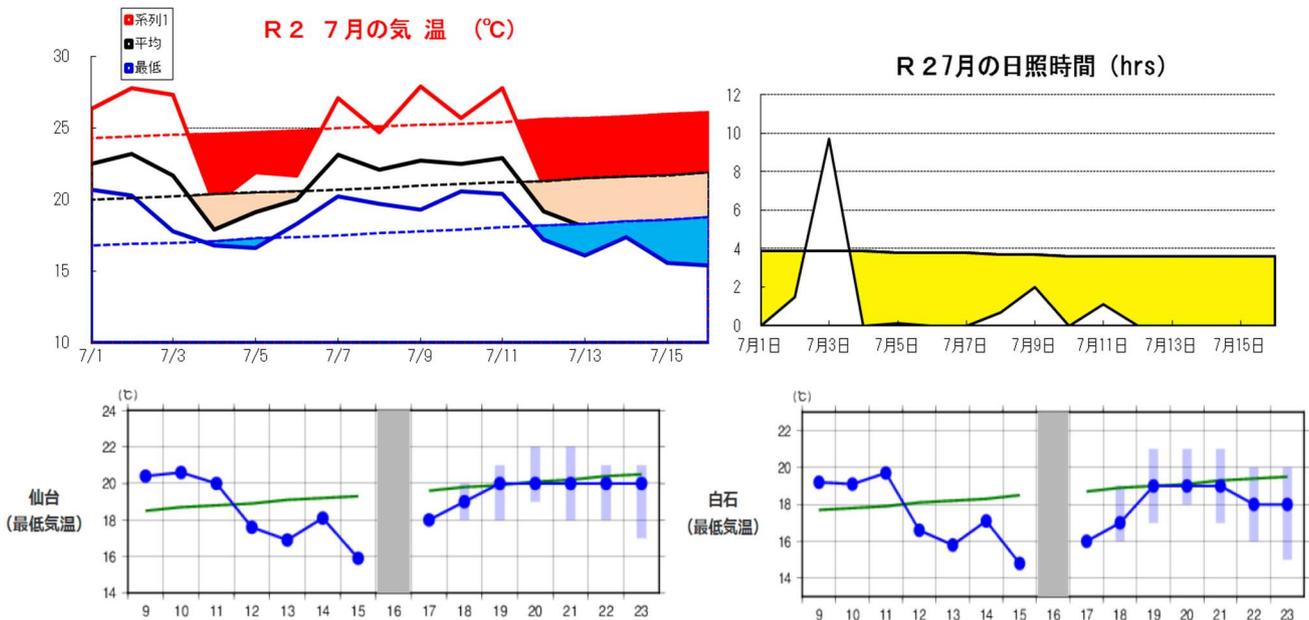


～7月12日～低温，来週も一時低温・水管理を万全に！！～

1 気象経過と予報（令和2年7月1日～）（古川アメダス）

- ・アメダス平均気温が20℃を下回る日が続いている。
- ・日照時間も7月3日を除き，全て平年より寡照である。
- ・気象庁の2週間予報では，平年より低温が出現すると予報している。

※幼穂が確認され，障害不稔等の発生が懸念される。平均気温20℃，最低気温17℃が目安



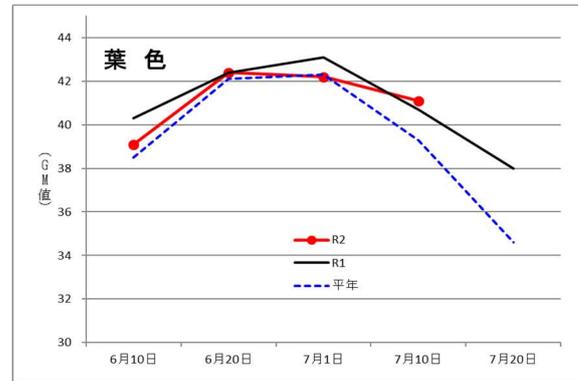
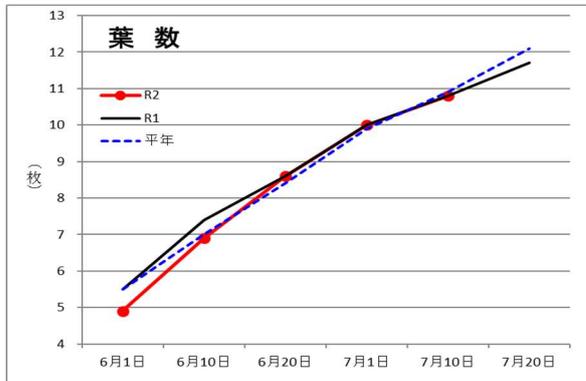
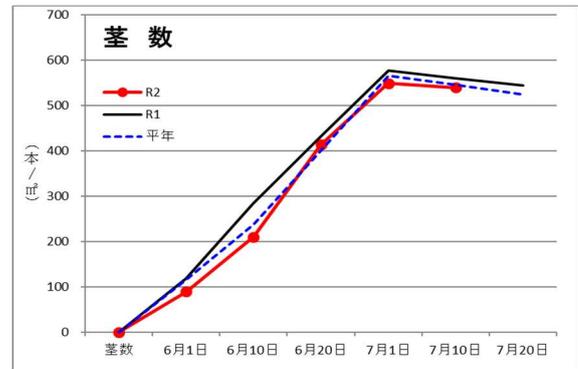
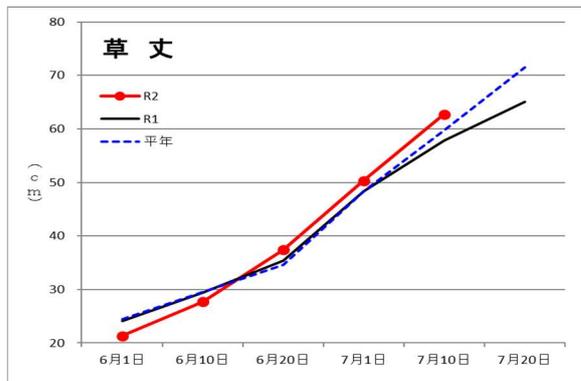
2 生育状況

(1) 7月10日現在の生育（宮城県生育調査圃）

- ・草丈：62.7cm（平年比105%，前年比108），m²当茎数：539本（同96%，同96%）
- ・葉数：10.8枚（同差±0枚，同±0枚），葉色：GM値41.1（同差1.6，同0.4）
- ・幼穂長：1.8mm（同差-1.0mm，同0.2mm）

草 丈			茎 数			葉 数		
本 年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	前年比 (%)	平年比 (%)	本 年 (枚)	前年差 (枚)	平年差 (枚)
62.7	108	105	539	96	96	10.8	0.0	0.0

葉 色			幼穂長		
本 年 (GM値)	前年差 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (mm)	前年差 (mm)	平年差 (mm)
41.1	0.4	1.6	1.8	0.2	▲ 1.2



(2) その他の幼穂生育状況 (石巻の圃場, 加美多収圃)

- ・石巻：中生：7/1 で5/1 植 2.4 mm, 5/10 植で 0.4mm となっている。
- ・石巻：中生：7/13 で「ササニシキ」, 「だて正夢」は 2~5mm
- ・加美：早生：「ゆみあずさ」 7/9 で 15~83mm, 金成：7/16 で 10~15mm



3 今後の管理

(1) 深水管理で低温障害回避

- ・低温注意報が継続して出されており, **嚴重な注意**が必要である。
- ・本会で設置している水田センサーデータを見ると, 水田内の水温は水温より数℃高い。
- ・水稻の生育ステージは下記の予想となっており, **本年の作況を左右する最重要時期**である。
- ・危険期に**低温**が予想される時は, **できる限りの深水管理**とする。
- ・山間部や低温掛水田では, アメダス値より気温が低いことが予想され特に注意が必要である。

地帯区分	田植時期			幼穂形成始期			減数分裂期			出穂期		
	始期	～	終期	始期	～	終期	始期	～	終期	始期	～	穂揃期
北部平坦	5/2	～	5/19	7/2	～	7/11	7/12	～	7/21	7/31	～	8/7
南部平坦	5/3	～	5/19	7/2	～	7/10	7/12	～	7/20	7/31	～	8/6
仙台湾岸	5/3	～	5/23	7/2	～	7/14	7/12	～	7/24	7/31	～	8/9
西部丘陵	5/7	～	5/26	7/5	～	7/16	7/15	～	7/26	8/3	～	8/12
山間高冷	5/7	～	5/27	7/13	～	7/21	7/23	～	7/31	8/12	～	8/19
三陸沿岸	5/7	～	5/25	7/10	～	7/17	7/20	～	7/27	8/8	～	8/14

※1) 出穂期の平年値は過去10か年(平成21~30年)のうち、最も早い年と遅い年を除いた8か年平均
 2) 7月3日までアメダスデータ実測値使用。7月4日以降はアメダス平年値を使用
 3) 対象品種「ひとめぼれ」「ササニシキ」「やまのしずく(山間高冷)」
 4) 各生育ステージの幅は、各地帯区分別の田植始期~田植終期で予測

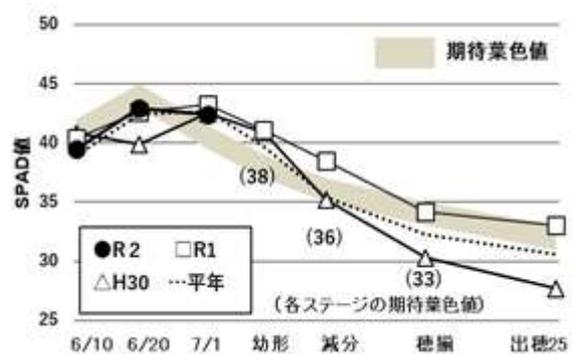
(2) 追肥

- ・現在の葉色は平年より濃い目に推移しているが、好天になると葉色が低下するので、幼穂長や葉耳間長を圃場ごとに確認し、葉色を落とさないように下記の施用量を参考に追肥する。
- ・追肥後一時的に稲体窒素濃度が高くなると、いもち病に対する抵抗力が弱まるので注意する。
- ・基肥に緩効性肥料（長期溶出型の被覆尿素肥料等）を適正量施用した場合は、原則として穂肥は行わなが、減数分裂期の葉色値が33以下の場合は追肥を実施する。
- ・「ひとめぼれ」で品質と食味を確保するため㎡当粒数2.8～3万粒を目標に、穂揃期の葉色を33～35ポイントで推移させる葉色管理を行う

品種名	追肥時期別及び施用量(窒素成分量)	
	幼穂形成期(出穂25～20日前) 【幼穂長:1～2mm】	減数分裂期(出穂15～10日前) 【幼穂長:3～12cm】
ひとめぼれ	1.0kg/10a	1.0kg/10a
ササニシキ	—	1.0～1.5kg/10a
まなむすめ、つや姫	2.0kg/10a	—
みやこがねもち	—	1.0kg/10a

※「ひとめぼれ」の葉色

(3) 病害虫防除



① いもち病

- ・いもち病の感染好適日は6月27日頃から断続的に県内各地で出現している。
- ・これまでの天気は寡照により稲は軟弱傾向で、気象庁の週間予報では、気温は高めで雨が多いとされており、いもち病の発生が懸念される。
- ・箱施用剤や予防粒剤の効果が低下し始める時期なので、圃場を観察し発病を確認したら直ちに茎葉散布剤で防除する。
- ・粉剤や液剤などの茎葉散布剤による穂いもち防除は、1回目の防除を出穂直前に、2回目を穂揃期に行う。

② 紋枯病

- ・高温多湿が発生に好適で、防除要否の判断基準をみて穂ばらみ期から穂揃期に防除する。

③ 斑点米カメムシ類

- ・イヌホタルイやノビエ等の水田雑草は、斑点米カメムシ類の侵入を誘引するので、雑草の穂が出る前に取り除く。
- ・畦畔や水田周辺の雑草地は、7月中旬～出穂10日前までに草刈りを終える。
- ・薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本である。